

授業日	H20/1/18	教科名	社会科	単元名	都道府県の規模の調査 やっぱり茨城県!?
-----	----------	-----	-----	-----	----------------------

生徒の実態について	活力ある学びについて
<p>[学習への意識]</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べ学習では個人の考えが書け、話し合い活動では積極的に意見を述べられるなど、<u>学習したことがらを活用した表現活動に意欲的に取り組める。</u> 7月実施の学校生活スキル調査では、「学校の授業が楽しい(80.0%)」、「授業内容がよく分かる(78.5%)」、「<u>もっと学びたいという気持ち強い(66.9%)</u>」という結果が得られている。(第1学年のデータ) <p>[学力について]</p> <ul style="list-style-type: none"> 県学力診断テスト(4月)等の結果からは、県平均よりも上位の学力があるという結果が得られている。(第1学年のデータ) 知識習得型の学習を不得手とする面があるが、授業中はしっかりと話を聞き、指示された活動にも能動的に取り組む。しかし、<u>自ら課題意識をもち学習する態度までには育っていない。</u> 	<p>[本校で求める活力ある学びの姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「活力ある学び」を、教科の特性が生きており、生徒が学習の主体であるという自覚をもって行う学習と捉えている。そこでは、生徒が自ら課題意識をもち、見通しをもちながら学習を進め、学んだという成就感のもてる学習が展開されていることをめざしている。 <p>[各教科で求める活力ある学びの姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的事象に対する興味・関心をもち、<u>自己の課題をもとに調べて考え、課題を解決していくことで理解を広げ、深めていく。</u>さらに新たな疑問を発見し、追究していく(いこうとする)姿。

本時で求めたい活力ある学びの姿
<p>集団思考によって課題意識を深め、根拠をもとに地域的特色をとらえようとする姿</p>

活力ある学びを実現する具体的な方策	教科の特性について
<p>① 個人の考察や課題意識を深化できるように、学級全体や小集団での集団思考の場を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人学習の時間の確保 「<u>生徒の考察</u>」の教材化 集団思考の繰り返し <p>② 根拠を明らかにしながら都道府県規模の地域的特色を明らかにできるように、資料提示の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートをもとにした、比較検討の基準となる地域の設定(1組：茨城県, 2組：東京都) 多角的な検討が可能な「<u>キーワード(住みやすさ)</u>」にもとづく調べ活動 多様な資料(主題図)の提示 	<p>[学習指導要領・単元の内容等]</p> <ul style="list-style-type: none"> 47都道府県の中から<u>幾つかの都道府県を取り上げ、地理的事象を見いだして追究し、地域的特色をとらえさせるとともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる。</u> <p>[各教科への生徒の意識]</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分で調べたり、グループで話し合ったりすることへの意欲が高い。 社会科の学習で、<u>より学びたいと思ったこと</u>が少ない。 自然が豊か、気候が温暖などを「住みよい場所」の条件として考える生徒が多い。

活力ある学びが実現したかどうかの検証の視点
<p>① 生徒の観察やノート等の記述から、集団思考の場の工夫によって、個人の考察や課題意識が深化できたかどうかを検証する。</p> <p>② 生徒の観察やノート等の記述から、資料提示の工夫によって、根拠を明らかにしながら都道府県規模の地域的特色を明らかにすることができたかどうかを検証する。</p>

めざす生徒の姿	集団思考によって課題意識を深め、根拠をもとに地域的特色をとらえようとする姿
---------	---------------------------------------

1 単元 都道府県の規模の調査 やっぱり茨城県？

2 目標

- 茨城県についての関心が、その他の都道府県への関心へと継続し、自ら課題を設定するなどして、その県の地域的特色をとらえようとしている。 (社会的事象への関心・意欲・態度)
- 設定した課題を、地域の環境条件や他地域との結びつきなどと人間の営みとのかかわりから、多面的・多角的に考察している。 (社会的な思考・判断)
- 都道府県の規模の地域的特色をとらえるために、地図・写真などの読み取り、インターネットの活用、統計のグラフ化や地図化などを通して、必要な情報を適切に選択して活用している。 (資料活用の技能・表現)
- 地域の環境条件や他地域との結びつきなどと人間の営みとのかかわりからとらえた地域的特色を理解し、その知識を身につけている。 (社会的事象についての知識・理解)

3 単元について

本単元は、学習指導要領の地理的分野・内容（2）「地域の規模に応じた調査」のイを受けて設定した。ここでは、「47都道府県の中から幾つかの都道府県を取り上げ、地理的事象を見だし追究し、地域的特色をとらえさせるとともに、都道府県規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせる。」ことをねらいとしている。そのためにまず、茨城県についてジグソー学習の形式で学習を進め、多面的・多角的に考察することで、その地域的特色をとらえさせていきたい。次に個人のテーマにもとづいて、こだわりをもった視点で対象とする都道府県を調査することで、最後は、国土全体を視野に入れながら、ある特定の観点から幾つかの都道府県を比較検討することで、それらの地域的特色をとらえさせていきたいと考えた。

本学級の生徒は、明るく能動的で、調べ学習では個人の意見がしっかりと書け、話し合い活動では積極的に意見を述べられる生徒が多い。県学力診断テスト（4月実施、第1学年のデータ）等の結果からは、県平均よりも上位の学力があるという結果が得られており、学習への継続的で落ち着いた取り組みが見られる。社会科のアンケートでは、自分で調べたり、グループで考えを練り合ったりする学習活動への関心が高いが、「より学びたいと思うことが少ない」という傾向が見られた。また、知識習得型の学習を若干不得手とする面があるが、授業中は話をしっかりと聞き、指示された活動には一生懸命取り組む。しかし、自ら課題意識をもって学習にのぞむ姿勢にまではいたっていないのが現状である。本授業との関わりでは、「自然が豊か、気候が温暖なこと」などを「住みよい場所の条件」として考えている生徒が多い。

本単元では、学習した内容を積極的に活用し、表現できるというよさを生かしながら、都道府県規模の調査活動を行うことを通して、課題について解決しようとする意識を連続させながら、自ら学習にかかわってこうとする態度を養いたいと考えた。そのために、二つの工夫を行っていきたい。第一は、課題解決への意識を高め、個人の考察を深化できるように、学級全体や小集団での集団思考の場を工夫することである。個人の考察が十分にできるような時間の確保、「友達の考察」についての検討（生徒の「ことば」の教材化）、話し合い活動の繰り返しなどを通して、ねらいを達成していきたいと考える。第二は、根拠を明確にしなが、都道府県規模の地域的特色を明らかにできるように、資料提示の工夫をすることである。生徒のアンケートをもとにした思考の基準となる都道府県の設定、多角的な検討が可能となるキーワード「住みやすさ」の提示、多様な資料（主題図等）の準備・提供などを通して、ねらいを達成していきたいと考える。

4 単元計画（17時間）

次	時	学 習 活 動
1	1～4	地理的「茨城県の姿」をとらえよう！
2	5～12	岩手県，福岡県，東京都，そして…
3	13	やっぱり，〇〇（都道府）県？ <ul style="list-style-type: none"> 各学級の「将来住んでみたい都道府県ランキング」をもとに，なぜその都道府県が選ばれたのかについて話し合う。 話し合いをもとに，『〇〇（都道府）県は，本当に住みやすいのだろうか。』について，予想を立てる。
	14	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな統計資料や主題図をもとに調べ学習を行い，学習課題に対する自分の考えをまとめる。
	15	<ul style="list-style-type: none"> 友達の考察について話し合う活動を通して，茨城県や比較の対象とした都道府県の地域的特色を明らかにしていく。
	16(本時)	<ul style="list-style-type: none"> 話し合われた内容や新たに生まれた疑問をもとに，次時の学習課題を設定する。 学習課題に対して，根拠（資料）をもとに自分なりの考察を行う。
	17	<ul style="list-style-type: none"> 『住みやすさ』についての視点から，将来，自分が住んでみたい場所の要件についてまとめ，話し合う。

5 本時の指導

(1) 目 標

資料を活用しながら，「(住みやすさについての) 友達の考察」について話し合うことを通して，茨城県やその他の都道府県の地域的特色を明らかにする。

(2) 資料・準備

日本地図 ノートパソコン（3台） 学習カード ワークシート 資料集

(3) 展 開

学 習 活 動	支 援 ・ 評 価 (◎)
<p>1 前時の学習を振り返り，本時の学習を見通す。(全体)</p> <p>2 前時に調べて考察したことをもとに，本時の学習課題について話し合う。(全体)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>生活の経済面から考えると，茨城県は本当に「住みやすい」といえるのだろうか。</p> </div> <p>〈予想される生徒の感想〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 所得平均が多く，企業の破産が少ない。 東京に比べると就職率は低い，就職先はある。 地方財政は大きいので，県民の生活は安定。 <p>3 話し合いから生じた新たな疑問に対して，資料を選択して調べ活動を行い，考察をまとめる。(個人)</p> <p>4 本時の感想を学習カードにまとめる。(個人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習への意欲を喚起するために，前時は「安心・安全」の面に付いての話題が多く出され「(茨城県は) 住みにくいのではないか」という考えにいたった生徒が多くいたことを確認する。 「住みやすさ」については一面的な見方(資料)からだけでは判断できないことを再認識できるように，「経済面」からの検討も行う。 発言は，資料を根拠として具体的な数値を明示して行ったり，その事実についての自分なりの考察を加えたりしながら行うことを指示する。 <p>◎ 資料を活用しながら，茨城県の経済的な地域的特色を明らかにすることができたか。(発言，学習カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> 前半の話し合いの中から生まれた新たな疑問を後半の学習課題とし，それにもとづいた調べ学習を行う。